



機関誌 どうとくのひろば

実践事例のご紹介など、日々の授業のヒントが満載です。

各種 リーフレット

1テーマで教科情報をお届けします。

教授用資料は、日文Webサイトでもご覧いただけます。

これまでの疑問



- ねらいの設定が不十分だと指摘されてしまいました。
- 教材は子どもに順番に読ませていますが、ダメでしょうか。
- 「どんな気持ちでしょう。」という発問では、深まらないんですが……。
- グループで話し合っても、自分の考えの紹介で終わってしまいます。
- ワークシートや吹き出しを用意しても、書けない子どもがいます。
- 役割演技がハチャメチャになってしまいます。
- 板書に困っています。
- 展開後段って、なぜ必要なのですか。
- 今までの自分を振り返れない子どもが、とても多いのですが…。
- 終末に教師の体験談を語るのが、苦手です。
- 「自我関与」って、どういうことですか。
- 「心情理解にとどまらず」って、どういうことでしょうか。

※バックナンバーは、日文Webサイトでもご覧いただけます。

ここが知りたい
小学校道徳科15の疑問 vol.5

日文 教授用資料
令和元年（2019年）10月31日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261

本資料は平成30年(2018年)度版小学校道徳科内容解説資料として扱われます。
本書の無断転載・複製を禁じます。

CD 33483

日本文教出版 株式会社
<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18・7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

ニガ
知りたい

小学校
道徳科

15

vol.5

疑問13~15

完結編

の疑問

岡山市立大野小学校校長 深井 守



疑問
13

「決意表明」をさせればよいと思うのですが…。

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の教科書情報

詳しくはWebへ!

疑問
14

「道徳性」を養うことが道徳科の目標なのに、「道徳性」を評価しないのはなぜですか。

疑問
15

なぜ、今学級で起きている問題を道徳科で取り上げないのですか。

「決意表明」をさせればよいと思うのですが…。

終末で「これからは、友達と仲よくします。」
「これからは、学校のきまりを絶対に守ります。」
と決意表明をすると、道徳科の授業を通して、
一人一人の子どもが何を学んだかが、とてもはっ
きりします。子どもの変容が見られます。教師
としては、道徳科をやったかがあったと思ひ
ます。だから、どんどん「決意表明」をさせれ
ばよいと思うのですが、先輩の先生から「それ
はさせない方がいいよ。」と言われました。いっ
たいていどうしてなのでしょう。



「決意表明」をさせれば、子どもが何を学んだかがはっ
きりするというのです。確かに、「これからは、友達と
仲よくします。」「これからは、学校のきまりを絶対に守
ります。」などと、子どもが発言したり記述したりすると、
教師としては子どもの変容が見られた、今日の授業は効
果があった、やってよかったという気持ちになるでしょう。
でも、その発言や記述は本当は誰が発したのか、よく
考えてみましょう。そうすれば、先輩の先生の言ったこ
とも理解できるのではないのでしょうか。

1 「決意表明」するのか、させられるのか

まず、道徳科の終末あたりです。「決意表明」は、子
どもが自発的にしたのか、教師にさせられたのか考えて
みましょう。

例えば、子ども同士でケンカがあった際、よく双方を
呼んで話をしますよね。それぞれの言い分をじっくりと
聞いてやり、お互いに心から謝って仲直りをさせたいも
のです。ところが、実際の生活は忙しくて、じっくり話
を聞く時間がないということはありませんか。そんなと
き、双方の話を詳しく聞かないで、ついついすぐに「謝
りなさい。」と教師から指示をしてしまいます。すると、
子どもは素直に「ごめんなさい。」と言ってお互いに握手

をします。でも、心の中では「あかんべえ」をしています。
だから、仲がよいのも束の間、またすぐにケンカになる
ということがあります。

どこに問題があるのでしょうか。確かに「ごめんなさ
い。」という言葉は、子どもの口から発せられています。
発せられてはいますが、嘘だったということです。それは、
教師が焦って「謝りなさい。」と指示をしたからです。押
しつけです。押しつけただけで、子どもの心には響いて
いなかったということです。



「決意表明」もこれに似たところがあります。教師の指
示で「決意表明させられた」わけですから、たぶんに怪
しいということです。子どもは、きっと先生はこのよう
に言ってほしいのだと推察しているのです。それを教師
は鵜呑みにしたり、今日の授業はうまくいったと勘違
いしたりしているわけです。それこそ教師の自己満足で
しかありません。

2 子どもが自ら考え発するなら

では、すべての「決意表明」がよくないのかという
と、そうではありません。子どもが自ら考え発した「決意表明」
は、本物です。しっかりと受け止めてやりましょう。

授業中、教師はまったく意図していなかったのに、あ
る子どもが「これからは人のせいにしません。」と「決意
表明」したことがあります。その子どもは、教材の主人

公が失敗を人のせいにせず、がんばった姿に心を動かされ、
自らを振り返って、人のせいにして言い訳していた自分
が見えてきたのです。そこで、思わずそういう「決意表明」
をしたのです。教師が、言わそうとしたわけではありま
せん。こういうのが本物の「決意表明」だと思ふのです。

3 多様性を認め合うこと

道徳科に限らず、自分の思いや考えが自由に話し、多
様性を認め合える学級の雰囲気をつくることは、とても
大切なことです。

ちょっと、算数科で考えてみましょう。問題を解いて
いる途中で、Aさんが「ここがわからないんだけど、教
えて。」とBさんに尋ねたとしましょう。もし、Bさんが「そ
んなこともわからないの。」と言ったり、周りの子どもが
クスクスと笑ったりしたら、どうでしょう。もうAさんは、
「今後わからないことがあっても、二度と尋ねないぞ。」
と思うことでしょう。

反対に、Bさんが「いいよ。」と言って、とてもいい
にAさんがわかるまで教えたとしましょう。そうすると、
「わからないことは、恥ずかしがらずに尋ねればいいんだ。
Bさんありがとう。」ということになります。Bさんも、
Aさんに教えることによって、自分もより詳しくわかる
ことができたし、「今度わからないときはAさんに尋ねて
みよう。」と思うでしょう。

また、算数の問題の答えは一つでも、解き方はいくつ
かあるのが一般的です。それらの解き方を比較してみると、
簡単でわかりやすいものと、めんどろで手間のかかる
ものがあります。算数的には、簡単でわかりやすい
ものを求めるものですが、もし他の解き方を全部否定さ
れてしまったら、どうでしょう。子どもは自分が考えた
解き方を、思い切って友達や先生に伝えることができな
くなってしまいます。

道徳科でも、よりよい生き方を求めて「考え、議論」



していきませんが、人間の弱い部分にも触れる必要があり
ます。「よいとわかっているけど、なかなかできない。」「い
けないとわかっているけど、ついついやってしまう。」「そ
ういうことって、誰にでもあるよねえ。」とお互いに自由
に言い合いながら、「考え、議論」していきたいものです。

また、友達の考えを聞いて「へえー、そういう考えも
あるかもしれないね。」と認め合うことも必要です。そう
でなければ、視野の狭い議論になってしまい、それこそ
決まり切ったことを言ったり書いたりする授業になって
しまいます。

自分の思いや考えが自由に話し、多様性を認め合うと
ころに、人間理解、他者理解があります。そしてそれが、
物事を「多面的・多角的に考える」ことでもあるのです。

このように、多様な考え方を認め合える学級の雰
囲気のなかで、子どもたちの本物の「決意表明」が
自然に発せられるなら、それがいちばん理想的とい
えるでしょう。

「決意表明」をさせることを目的にしてはいけませ
ん。「決意表明」をする必要はないのです。ただ、
教師は無意識のうちに子どもを「決意表明」へ誘導
していることがあるかもしれませんから、言わせた「決
意表明」にならないように気をつけましょう。

疑問 14

「道徳性」を養うことが道徳科の目標なのに、「道徳性」を評価しないのはなぜですか。

道徳科の目標は、「道徳性」を養うことですよ。それなのに、評価をするときは、子どもの学習の状況や成長の様子を評価しますよね。それっておかしくないですか。「道徳性」の育成が目標なのに、「道徳性」を評価しないのはなぜですか。



なるほど、もっともなご意見です。「道徳性」の育成を目標に掲げておきながら、「道徳性」を評価しないというのはおかしいですよ。もし、目標が知識や技能であれば、評価することができます。知識や技能がどれくらい身についたか、テストをしてみればよくわかるからです。テストの結果は、数値化することもできます。その数値に基準を設けて、基準よりも数値が高いか低いかで評価することもできます。

ところが、「道徳性」は簡単には評価できないのです。それはなぜか、一緒に考えていきましょう。

1 容易ではない「道徳性」の評価

「道徳性」は「内面的資質」です。心の部分です。それは、目に見えないものです。測ろうとしてもなかなか測れないものです。

ここで、道徳性の諸様相を整理しておきましょう。

<道徳性の諸様相>

●道徳的判断力

それぞれの場面において善悪を判断する能力

●道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと

●道徳的实践意欲と道徳的態度

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の動きと、それらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

道徳性を3つの諸様相に分けたところで、どれも「内面的資質」であり、目に見えないものです。測れないものです。「道徳的態度」は、どうでしょうか。一見、「態度」というと行為のように思われがちですが、はっきり「身構え」となっています。行為として現れていないので、見ることはできません。測ることもできません。

目に見えないのであれば、子どもから表出された発言や記述を手がかりに探るといえるのでしょうか。たくさん発言しているから、この子どもは「道徳性」が高い、しっかり記述しているから、この子どもは「道徳性」が高いと判断してもよいのでしょうか。私はその判断はできないと考えています。ここには、表現力というものが大きく関わってくるからです。心の中にあるものをうまく表現できる子どもと、うまく表現できない子どもがいることはよくご存知のことでしょう。発言や記述がうまくできないからといって、一概にこの子どもは「道徳性」が低いとは、判断できないと思うのです。

このように、「道徳性」の評価は、容易ではないのです。



2 道徳教育と道徳科

「道徳性」の評価は容易ではないといいながら、これまでだって「道徳性」を評価してきたではないかと、疑問に思われるかもしれません。実際に、通知表や指導要録には、「行動の記録」の観点に○印をしてきました。例えば、誰にでも明るいあいさつをする、友達と仲良く

助け合う、みんなで使うものを大切にするなどです。また、「総合所見」の欄にも、具体的な記述をしてきました。

しかし、これらは学校の教育活動全体の中で見られた行為の評価です。行為は見えますから、評価できます。その行為ができていているということは、こういう「道徳性」が養われているからではないかと判断してきたということです。

でも、それは学校教育全体を通して行う道徳教育の中でできることです。道徳科の中では、「道徳性」を評価することは、やはり容易ではありません。

3 道徳科での評価

では、道徳科では何をどのように評価すればよいのでしょうか。「学習指導要領 解説」に示された基本的な考えを整理しておきましょう。

- ①児童の人格や「道徳性」そのものを評価するものではない。
- ②学習の状況や成長の様子を明らかにし、指導に生かす。(指導と評価の一体化)
- ③一人一人の成長を見守り、努力を認め励ます。
- ④数値による評価ではなく、記述式とする。
- ⑤個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価とする。
- ⑥他の児童との比較ではなく、個人内評価として行う。
- ⑦担任だけでなく、学校の方針に従って組織的・計画的に取り組む。

そして、重視する観点は、次の2つです。

- ★児童がより多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ★道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

4 道徳的価値の理解

ここで気になるのは、ねらいとする道徳的価値がどれくらい理解できたかどうかを評価しなくてよいのかということです。

他教科では、理解させることを目標としているのですから、理解できているかどうかを評価基準をつかって評価します。でも、道徳科では道徳的価値の「理解をさせ」という目標にはなっていません。「理解を基に」となっています。何をもちょう道徳的価値について理解できたかと判断するのは、とても難しいことです。

ですから、自分自身との関わりで考えていたかというような、学習の状況を評価しようというわけです。

このように、「道徳性」は評価が難しいですから、学習の状況や成長の様子を評価することになります。ならば、学期末や学年末を待つことなく、その場、その場で温かく評価してみてもどうでしょうか。道徳科の授業中に、「自分のこととして、よく考えているね。」「友達の考えを聞いて、そう思うようになったんだね。」などと褒めてやりたいものです。もちろん、それらの積み重ねによって、通知表や指導要録の記述ができあがるわけです。

なぜ、今学級で起こっている問題を道徳科で取り上げないのですか。

道徳科ってまわりくどいと思いませんか。遠い将来、出合うか出合わないかわからないことについて考え議論するなんて。それよりも、今学級で起こっている問題を取り上げれば、すごく効果的だと思います。例えば、学級の中にいじめがあるから、それをみんなで話し合って解決しましょうとか。音楽発表会の楽器の役割分担を、みんなで話し合って公平に決めましょうとか。なぜ、今学級で起こっている問題を道徳科で取り上げないのですか。

道徳科では、年間指導計画に沿って教材を活用して授業をしていきます。いじめに関わる内容項目として「公正、公平、社会正義」「親切、思いやり」「友情、信頼」「相互理解、寛容」などがあります。それらを、いじめを生まない風土づくりにつながると意識して指導することです。



また、音楽発表会の楽器の役割分担は、公平に決める必要があります。でも、それも道徳科ですることではありません。全教育活動を通じて道徳教育を行うわけですから、それは音楽の時間にしてもよいし、特活の時間にしてもよいことです。

2 問題解決的な学習では

道徳科でも「問題解決的な学習をしましょう」と言われていますよね。これも学級で今起こっている問題を取り上げようということではないかと思われるかもしれませんが、でもそれは、適切ではありません。

道徳科の「問題」というのは、道徳的価値に根ざした問題であり、日常生活の諸事象とは違うのです。

<道徳的価値に根ざした問題の例>

- ・親切とは、どういうものだろう。
- ・何のためにきまりはあるのだろう。
- ・自由とは、何でも好きにできることだろうか。

<日常生活の問題の例>

- ・あいさつの声が小さい人が多い。
- ・掃除の時間に遊ぶ人がいて困る。
- ・廊下を走る人がいるので危ない。

問題解決的な学習では、子どもは自分の体験から「親切は、こういうものだ。」という自分なりの考えをもちます。それを友達と話し合うことによって、親切のよさや難しさに気付いていきます。そして、「親切とは、こういうものだ。」という考えを深めていきます。これは、学級で一つにまとめる必要はありません。親切についての考えや感じ方も一人一人によって幅があるということです。

ただし、「あいさつの声が小さい人が多い。」などの問題をまったく取り上げないというわけではありません。そのことだけを取り上げるのではなく、「礼儀」という道徳的価値に根ざした問題を考えていく際のきっかけにすることは考えられます。

3 体験的な学習では

最後に、「体験的な学習」はどうでしょう。「体験的な学習を取り入れる」なので、今、現実に学級で起こっている問題を道徳科に取り入れればよいと考えるかもしれませんが、ところが、これも適切ではありません。

体験的な学習は、疑似体験です。頭で考えると簡単なことを、実際にやってみる。やってみるによってそのたいへんさやよさを実感するのです。そのことによって、道徳的価値の理解が深まることが期待できます。

具体的には役割演技が中心ですが、あいさつやいい言葉遣い、思いやりのある言葉かけ、手助け、謝って仲直りするなどの道徳的行為をしてみることが考えられます。

これらの疑似体験は、今学級で起こっている問題とは、まったく違うものなのです。



今学級で起こっている問題の多くは、その問題に対してどう対応するか、改善するか、あるいは決定するかなど、直接的な解決が求められるものといえます。

一方、道徳の役割は、道徳性を養うため、道徳的価値についての理解を基に自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることにあります。

ですから、道徳科では問題場面の状況や背景について客観的に判断できて、お互いの考え、感じ方について気兼ねなく議論できる問題であることが望ましいのです。